

平成29年度

阿南市立山口小学校 「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- 1 獲得した知識を活用・判断し、自らの考えを表現する場を工夫した授業の構築
- 2 学習意欲を高め、主体的な学びをすすめる学習活動の展開

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員 校長：稲井 智義 教頭：尾形 徳康
山崎 寛子 教務主任：宮 真理子
特別支援教育コーディネーター：宮 真理子
人権教育主事：青木 和恵

校長

稲井 智義



(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 国語や算数の基本的な事項については、85%の正答率をほぼ達成している。 集会の場面ではほとんどの児童が話し手を見ながら聞くことができている。	①国語や算数の基礎的知識・技能を確実に身に付けることができる。 ②どのような場面でも、話し手を見て、話の内容を受けとめながら聞くことができる。	①基礎的・基本的な事項についての確認テストの正答率85%以上を継続させる。 ②話し手を見て、うなずきながら聞いたり、話の内容について質問したり、感想が言えたりする。	既習事項の復習を継続し、指標に届かない時は繰り返す。聞き方話し方チェックシートによる自己評価を1か月に1回行う。	評価	次年度における改善事項
課 題 時間が経つと既習事項を忘れてたり、習得状況に個人差が見られたりする。 授業中の話の聞き方がよいときと悪いときがあり、習慣化されていない。	①国語・算数のドリル学習と確認テスト、既習事項の復習を継続して行う。児童一人ひとりの課題を把握し、個別に支援する。 ②聞き方の具体的なモデルを示し、繰り返し働きかけることで、よい聞き方の習慣化を図る。	①基礎的知識や技能の定着確認テストを単元ごとに行い、月1回は既習事項の復習をする。 ②聞き方のモデルを具体的に示し、長期休業前に自己評価をさせて、意識付けを図る。			

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 友達の発言を聞いて発表できる児童が多くなった。 自分の考えを書いて発表することに慣れて力がついてきた児童が増えた。	知識を活用・判断し、自分の考えを自信をもって話したり書いたりすることができる。	自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることが得意と答える児童の割合を60%以上にする。	キーワードを使って、決められた字数の中で自分の考えを書く活動を取り入れる。聞き方話し方の自己評価・相互評価を単元の中で1回は行う。	評価	次年度における改善事項
課 題 相手を意識した発表や、自信をもって話す、言葉で分かりやすく説明するなどの技能に課題がある。	①学習活動の中で、自分の考えを書く活動を意図的に設け、ホワイトボードやICT機器を用いて発表させる。 ②発表の態度や内容について、自己評価・相互評価をする機会を意図的に設ける。	自分の考えを話したり書いたりする活動とその自己評価・相互評価を一日一回は取り入れる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ すすんで学習に取り組んでいると感じている児童が多い。 学年に応じた目標学習時間を達成している児童が80%を超えている。	①主体的に授業に取り組むことができる。 ②家庭で、学年の目標時間以上学習をすることができる。	①学習後の振り返りで、すすんで学習した児童80%以上を継続する。 ②学年に応じた目標学習時間を達成できた児童を80%以上にする。	賞賛の言葉がけは継続して意識的に行う。各学級で自主学習ノートの発表会を1か月に1回設定する。	評価	次年度における改善事項
課 題 授業への取り組み方、宿題以外の自主学習の取組や読書量について、個人差がみられる。	①学習活動の中で、承認欲求を満たし、自己肯定感を高める場を意図的に設定する。 ②家庭学習充実月間を設け、家庭学習振り返りカードを用いて家庭と協力して取り組むことができるようにする。	①1日に1回は、児童の発言や発表内容、学習態度等を賞賛する。 ②1か月に1回以上、自主学習ノートを紹介し合う。			

平成29年度 学力向上ロードマップ

